



高温に負けない暖地向きイネ品種をつくる

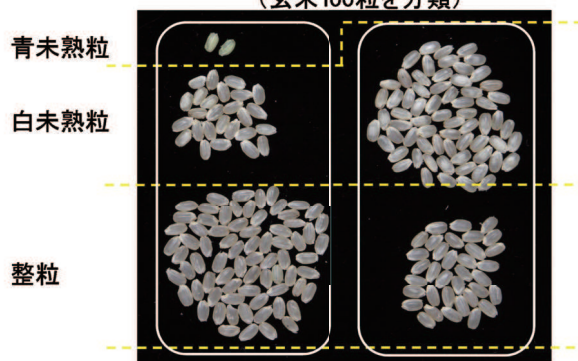
(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター



高温化傾向により、暖地での主力品種である「ヒノヒカリ」は、白未熟粒が多く出たり、米粒の充実が悪くなり品質の低下が深刻になっています。また、トビイロウンカや、縞葉枯病などの病害虫も多く発生する傾向にあります。そこで、高温でも品質や収量が低下せず、病気やイネにも強いイネ品種の開発を目指します。

1 高温耐性品種「にこまる」の育成と普及

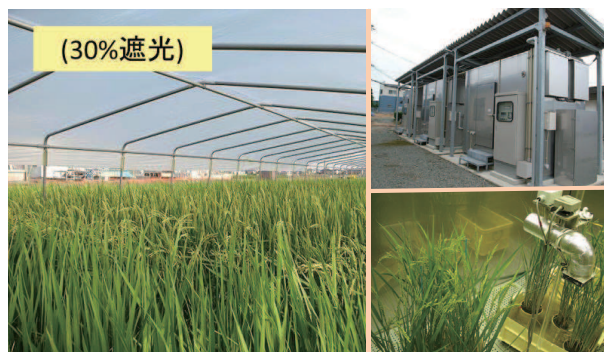
「にこまる」(2005年)育成は「ヒノヒカリ」より高温年でも白未熟粒の発生が少なく、西日本全域で急速に普及が進んでいます。私たちは「にこまる」よりも一層高温に強く、病害虫に強い品種の育成を目指しています。(玄米100粒を分類)



にこまる ヒノヒカリ
高温年(2010年産)の九州産玄米

2 高温+日照不足でもよく実るイネを選ぶ

遮光トンネルを用いた高温寡照耐性検定法と人工気象室を併用して暖地特有の高温+日照不足にも強い品種育成を進めています。

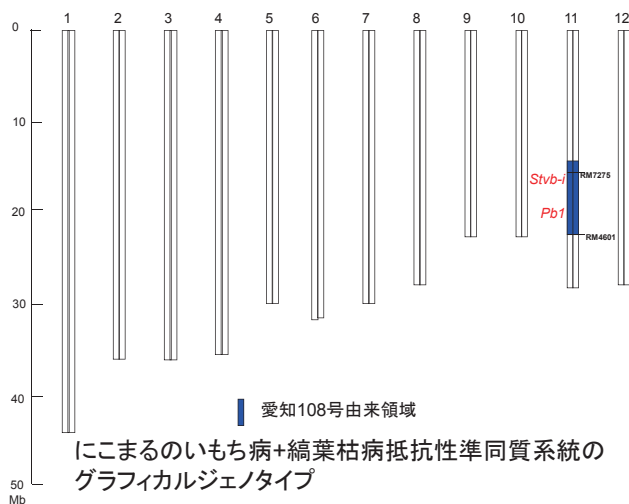


遮光トンネルを用いた検定

人工気象室

3 病気や害虫に強いイネを選ぶ

DNAマーカーによる検定を併用して行うことで、病害虫抵抗性をもあわせ持った品種育成を進めています。病害虫抵抗性以外の特性が「にこまる」と同一の系統を近日中に育成予定です。



4 最新の研究成果

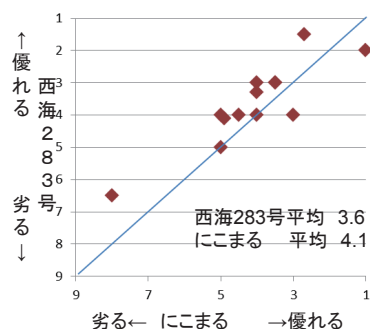
「にこまる」に優る高温耐性をもつ「西海283号」等の有望系統を育成し、地域適応性を検討しています。



にこまる(未熟粒ややあり)

西海283号

育成中の有望系統



奨励品種決定調査の玄米品質(2011年)